

# 経済学部

経済学科

経済理論専修 / 金融・会計専修 / 公共経済専修 /  
歴史・社会専修 / 産業・企業経済専修 /  
国際経済専修 / 統計・情報処理専修

経済学の専門的な知識を深め、社会を広くとらえる視野と柔軟な思考力をもつ人材を育成。

金融危機、環境問題、少子高齢化、異文化共存、所得格差…、社会のさまざまな問題を理論的・実証的・歴史的に考え、解決方法を探るのが経済学です。経済学部では、1年次に経済学の基礎を習得したうえで、2年次秋学期から、それぞれの興味や目的に応じて7専修に所属して専門性を追究。過去に学び、現在の経済社会を読み解き、未来を見通す人材を育てます。



## コーポレートファイナンスを学びながら 自分で考え、人に伝える力を養う

●経済学科 金融・会計専修  
経済学演習

中川 竜一 教授

本ゼミナールでは、「ファイナンス論」と呼ばれる経済学、とりわけ「コーポレートファイナンス」(企業金融論)について学びます。例えば、「会社はどうすれば銀行からお金を借りられるか」「株式をいつ発行すべきか」など、**企業の金融取引にまつわる諸事が研究対象になります。**「会社で働く人なら、誰もが理解していることでは？」と思うかもしれませんが、お金に関する企業の不祥事は毎日のように報道されていますし、日本の会社は特に旧態依然としたシステムや考え方が残っていて、金融の理論や知識がまだまだ不足していると言わざるを得ません。

研究テーマを自分で探し出すなど、ゼミは学生主導で進みます。最初(2年次秋学期)は、基礎となる専門用語や計算の手法などについて学びます。3年次になると興味のある経済問題について研究を行い、ゼミ内でディベートを重ね、プレゼンテーション大会で研究成果を発表。4年次春学期に卒業論文をまとめ、その実績を後の就職活動に生かしてもらいます。



ゼミ内で行われるディベートも100%の力で取り組む中川ゼミの学生たち。議論を組み立てる表情は真剣そのもの。

「大学に入ったら、自分で自分の目標を見つけたい。目標を達成するための具体的な方法は、講義で学ぶことができます」と語る中川教授。

## ゼミ生全員がお互いに刺激し合い、高みをめざすゼミ



「先生は、私たち一人ひとりの性格を大変よく理解したうえで、それぞれに合ったアドバイスをしてくださいます。自分の頭で考え、動く力が自然に身につくゼミだと思います。」(土橋さん)



土橋 春香

経済学部 経済学科 金融・会計専修 3年次生  
(大阪/羽衣学園高校出身)

人前で発表したりすることは苦手でしたが、ゼミ見学で先輩方がディベートをしている姿に圧倒され、「自分を変えるならこしかなない!」と思い、中川先生のゼミを選びました。**ゼミでは常に、自発的に行動することが求められます。**プレゼンテーション大会やディベートの場にも積極的に参加して、今では人前で話すことも当たり前と思うようになり、自分の考えが相手に伝わるまで徹底的に議論できるようになりました。

現在の研究テーマは「長時間労働は企業にとって有益か否か」。労働時間の短縮に関して、先行研究のアンケートでは労使の考えが異なることが示されています。長時間労働の解消が企業の業績にどのような影響を与えるか、株価と営業利益という観点から分析を進めています。